

平成28年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校第5学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、話の内容を理解しながら聞く力が低く、正答率は5割弱であった。 ・「言語についての知識・理解・技能」では、漢字の読みを理解している児童は多いが、書きの正答率が平均で4割程度と低い。 ・「文章題」では、文章の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力が低く、正答率が3割弱であった。 ・「書く」では、内容にあった言い回しを活用する力が低く、正答率が1割にも満たなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を考えながら聞く意識を高めるために、朝の会でスピーチを取り入れるとともに、話し手に対して感想を述べる機会を増やしていく。 ・例文を示すことにより、正しい言い回しを理解させる。また、構成表を書くことにより、筋道の立った文章が書けるようにする。 ・漢字を覚えることの重要性を自覚させ、家庭学習の充実を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解」では、消防士の仕事の理解が低く、正答率は2割程度であった。 ・「社会的な思考・判断・表現」では、道具のうつりかわりのメモ(分かったこと)から、まとめる力(考えたこと)の正答率が3割と低い。 ・「観察・資料活用の技能」では、資料と文章を比較・関係付けて読み取る力が低く、正答率は4割であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフの読み取る視点を明確にし、読み取る力を高めていく。 ・ICT(画像、DVDなど)、実物投影機、拡大コピー、ワークシート等を活用し、視覚的に理解を深めたり、資料の読み取る力を高めたりしていく。 ・事実と意見を区別した新聞を書き、表現力を高めていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み取る力・具体的な操作を手掛かりにする力が弱い。 ・同じ内容でも、出題の方法が変わると解答できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて発展的な問題を中心に取り組む時間を設定する。 ・問題をイメージできるような算数的活動を取り入れたり、日頃の生活の中で、数に関わる機会を設けたりする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解」では、昆虫の成長の違いや電気に通すものと通さないものについての理解が低く、正答率が4割程度であった。 ・「観察・実験の技能」では、気温や百葉箱の中に入っている記録温度計の測り方の正答率が2割と低い。また、星座早見表の使い方の正答率は3割であった。 ・金属の中でも、鉄、銅、アルミニウムのそれぞれの性質を理解している児童が3割弱で、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(画像、DVDなど)、実物投影機、拡大コピー、ワークシート等を活用し、視覚的に理解を深めたり、資料の読み取る力を高めたりしていく。 ・用具を実際に扱うことで、その使い方を理解できるようにする。 ・イラストや表などを入れた分かりやすいノートにまとめるようにする。 ・全ての児童が理解できるよう、「習得—活用」のように、授業を構造化する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことに課題が見られる。 ・楽器の特徴を生かして旋律楽器や打楽器を演奏することに課題が見られる。 ・音を音楽にする過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくることに課題がみられる。 ・曲想やその変化などの特徴を感じ取って聴くことに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う形態を工夫し、聴き合える場の設定をする。また、合わせやすい声の出し方をするために、姿勢を変化させて歌ったり、発音に気を付けて歌ったりする学習を多く取り入れる。 ・リコーダーの色々な指づかいに親しんだり、打楽器の打ち方を学んだりする学習を多く取り入れ、奏法が身に付くようにする。 ・即興表現の活動を大切にしながら、見通しのある音楽をつくる学習を多く取り入れる。 ・曲想を表すキーワードを大切に鑑賞の学習を行う。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを考えながら活動ができる。 ・学習活動以外のものに興味・関心が移ってしまい、学習活動に集中できないことが時折ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その子の良さを一人一人認め、つくる意欲に結びつくような声掛けを行う。 ・学習の目標をわかりやすく提示し、児童がめあてをもって課題に取り組めるよう工夫する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習、裁縫など、作業への取り組みは意欲的である。 ・裁縫において飾り物を付けたり、色合いを鮮やかにしたりと工夫する力が高い。 ・裁縫では、おおむね細かく縫うことができるが、玉止め玉結びなどが苦手な児童が多い。 ・おおむね理解しており、テストでも平均80点以上を修めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことと日常生活がどのように関わっているかを意識させることで、関心を高める。 ・生活をより良くするために、どのような工夫をしたらよいか考えらるようにする。 ・一斉授業だけでなく、児童相互に教え合う時間、個別に指導する時間を確保する。 ・ICTを活用し、細かな縫い方や切り方を示し理解につなげる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域でも、個人のめあてを達成しようと意欲的に取り組んでいる。 ・どうすれば技能が向上するのかを、友達同士アドバイスをし合い高めることはできるが、学習資料を活用していない児童が多い。 ・器械運動となると、技ができる児童は、黙々と取り組んだり、友達に教えたりするが、技ができない児童はなかなか取り組まない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育が楽しいと思える授業計画を展開し体育への関心を高めていく。規律の大切さを知らせ素早く行動できるようにする。 ・どうすればできるようになるのかを友達のアドバイスを生かしたり、学習カードを活用したりし、課題解決を図る。 ・学習過程、評価計画、習得するための具体的な手立て、支援計画等を用意する。また、児童相互の関わり合いを密にする。 	